

主な内容

2面	町田発未来型教育 ～ICT技術を活用した 授業展開に向けて～
3面	まちだの小中連携
4面	白洲正子 町田・武相荘での暮らし

まちだの教育

2019年
9月23日

No. 104



発行:町田市教育委員会 編集:学校教育課 教育総務課 ☎194-8520 町田市森野2-2-22 MACHIDA TEL 042・722・3111 ホームページ <http://www.city.machida.tokyo.jp>

未来の子ども達により良い教育環境を! ～学校統廃合を含めた通学区域見直しの議論を開始しました～

お問い合わせ 教育総務課 ☎042・724・2172

教育委員会では、将来の児童・生徒数の大幅な減少や学校施設の老朽化をきっかけとして、より良い教育環境を整備して充実した学校教育を実現するために、保護者や町内会・自治会、教職員それぞれの代表と学識経験者で構成する「町田市立学校適正規模・適正配置等審議会」（以下「審議会」）を設置し、議論を開始しました。

この審議会では、学校の統廃合を含めた通学区域の見直しという未来の子ども達の教育環境にとって大切な議論を行っていきます。公開して議論を進めていますので、ぜひ傍聴にお越しください。



教育長(左)から諮問書を受け取る佐藤会長(右)

適正規模・適正配置って何だろう?

適正規模・適正配置とは、小・中学校において良好な教育活動を行うことができる学校規模(学級数)の学校を、児童・生徒の通学時間・距離などを踏まえて配置することをいいます。

- 今後の審議会での検討内容(予定)
- 2019年度**
- 良好な教育活動を行うことができる適正な学級数
 - 適正な通学時間・通学距離などを踏まえた学校配置のあり方
- ※2020年1月頃の答申を予定
- 2020年度**
- 学校統廃合も含めた通学区域の見直し案
 - 今後の学校施設機能のあり方
- ※2021年4月頃(2021年度)の答申を予定

審議会 委員一覧表

区分	氏名	所属
学識経験者	◎佐藤 圭一	国士舘大学 学長
	丹間 康仁	帝京大学 准教授
市立学校の児童又は生徒の保護者	遠藤 誠徳	小山小学校 PTA
	小崎 公平	つくし野中学校 PTA
市内の町内会又は自治会の代表	○安達 廣美	町内会・自治会連合会
	中 一登	
市立学校の教職員の代表	中田 和夫	小川小学校長
	大石 眞二	木曾中学校長

◎: 会長 ○: 副会長

第1回 審議会(2019年8月27日)ダイジェスト

- ①石阪市長と坂本教育長のあいさつ ※右欄参照
- ②適正規模・適正配置に関する現状と課題の意見交換
- 委員の求めに応じて、事務局から次の内容を説明しました。
- ・1998年に審議会が出した答申内容
 - ・1998年答申後の学校教育を取り巻く環境変化
 - ・2019年6月に実施したアンケート調査結果
- 説明後、審議会は委員同士の議論を中心に進行し、適正規模・適正配置に関する各委員の問題意識や考え方について意見交換を行いました。また、アンケート調査結果において回答者の過半数が「地域ごとに建て替える学校を決めて、重点的に投資して建て替える」と回答していることや「学校統廃合を含めた通学区域の見直しを検討するうえでの配慮」について、保護者・市民から約1,500件の声が寄せられている状況を踏まえて、アンケートの結果を尊重すること、より良い教育環境を整備するために学校統廃合の議論が必要であるという認識で一致しました。

石阪市長あいさつ

今回の審議会では「適正規模・適正配置の基本的な考え方」をまとめていただくということですが、その先には学校統廃合を含めた通学区域の見直しがあるはずで、審議会の委員の皆様には「大変な仕事を引き受けていただいた」と思っています。

しかし、学校統廃合が目的ではなく、10年、20年後を見通して子ども達により良い教育環境をつくるのが目的だと思っています。

教育委員会の職員には、通学時間が長時間になる場合は、スクールバスを出すなど、自由にモノを考えるよう言っていますので、委員の皆様も幅広い議論をしていただければと思います。

坂本教育長あいさつ

将来の児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化、そして少子高齢化や社会保障費の増加等による構造的な収支不足という状況を見ると、おそらく今あるすべての学校をそのまま維持することは難しく、将来の子ども達の教育環境にとっては遠い未来の話ではなく、差し迫った危機だと捉えています。

しかし、委員の皆様には、この危機を町田市の新たな学校像を描く機会、そしてより良い学校教育の形を創る機会と捉えていただき、10年20年先の子ども達の目線に立った、柔軟な発想で議論をいただきたいと思っています。

第2回 町田市立学校適正規模・適正配置等審議会

開催日時 2019年10月4日(金) 18時～ ※予定

開催場所 市庁舎会議室3-1 ※公開で議論します。

主な審議内容 ①第1回審議結果の論点整理
②適正規模の基本的な考え方

審議会日程や使用した資料、議事録などは町田市ホームページに順次掲載していきますので、ぜひご覧ください。※QRコードからもアクセスできます。

町田市 適正規模・適正配置 審議会 [検索](#)



町田市教育委員会委員 後藤良秀(ごとう よしひで)氏を紹介します

経歴

町田市立南第四小学校や他地区小学校での教員、その後教育委員会職員を経て、2011年4月から8年間町田市立鶴川第二小学校長を務めました。

町田市議会の同意を得て2019年4月から町田市教育委員会委員となりました。任期は、2023年3月31日までです。

私の好きなもの

私は川や湧水などの水環境、里山などの自然が好きです。

幼少期に大分県の自然豊かな中で暮らしたことが影響していると思います。

これからは第二の故郷である町田市の自然環境をもっと実感していきたいと考えています。

抱負

町田市に住む人も集う人も、子どもも大人も、自分らしさを大切にして豊かに学び、生活を充実するとともに、市民の皆様が「教育の町田」を実感し、より誇れる教育都市となるように教育委員として尽力してまいります。

学校でのいじめに関するご相談は ●いじめ110番: 724・2867

障がいがある児童・生徒の就学・進学に関するご相談は ●就学相談: 793・3057

子どもの教育上の問題に関するご相談は ●教育相談: 792・6546

町田発未来型教育 ~ ICT技術を活用した授業展開に向けて ~

町田市では、これからの時代を力強く生き抜く力を子どもたちに育成するため、AI(人工知能)等の先端技術を活用した、新たな教育の実現に取り組みます。2019年度~2020年度の2か年で、小学校2校、中学校1校をモデル校として、次の2つのプロジェクトを推進していきます。

お問い合わせ 指導課 ☎ 042・724・2867

PROJECT I 『Machida Next Education』 G Suite for Education (※1) を活用した授業モデルの構築

町田市では、2020年度までにChromebook(※2)を全小中学校に導入します。2018年度に導入した学校では、すでにG Suite for Educationを活用した授業を実践しています。G Suite for Educationを活用し、「対話」や「協働」、「探求」を中心として学習を展開することにより、「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」等の力を育成するための学習手法を開発します。

これまでの日本型教科教育

「画一型・一斉型」の授業に特徴づけられる各教科ごとに系統立てられた教育

教科学習におけるG Suite for Educationの活用



「対話」や「協働」「探求」に軸をおいた授業



Chromebookを使えば、友達の考えを共有し、自分の考えを深めることができるよ!

思いついたことやアイデアを見える化して整理しよう!



モデル校から町田市内全小中学校に展開

町田市の子どもの、「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」を伸ばします!

※1 G Suite for Educationとは
Google社が提供している総合アプリケーション。
複数人で同じファイルをリアルタイムに共同編集することが可能。

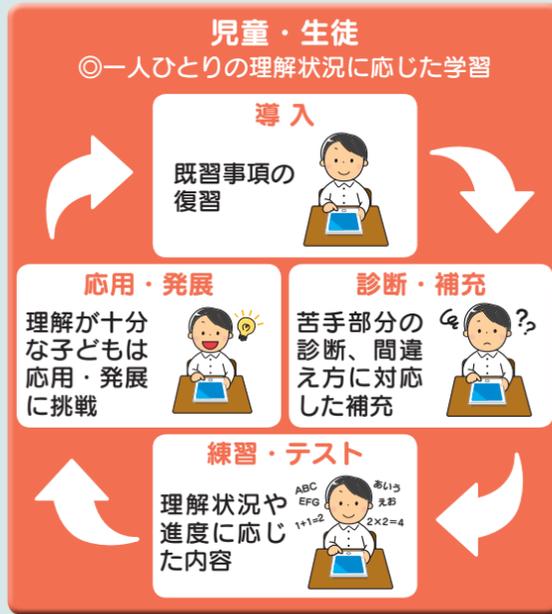
※2 Chromebookとは
Google社が開発しているOSを搭載したノートパソコン。
タブレットのようなタッチパネルによる操作とキーボードによる操作が可能。

PROJECT II 『AI for Education』 AI による「個別最適化された学習支援モデルの構築」

学習ドリルソフトが、一人ひとりの理解度にあった課題を提示することで、子どもたちは、自分に合った問題を解くことができるようになります。学習の流れをつくり、学力定着のサポートをします。また、教員は児童・生徒の学習状況をいつでも把握することができ、それにより、クラスや児童・生徒に合わせたきめ細かな指導や授業を行うことができます。



AI(人工知能)が「どの学習範囲が理解できていないのか」を探り当て、一人ひとりに合わせた教材を提供してくれるから、効率的で効果的な学習ができるね!



大好評

町田市中学校給食の無料試食会を行っています!!

デリバリー給食を実施している市内中学校19校で、生徒および保護者向けの無料試食会を、2019年9月から2020年1月の間に、各校原則1週間ずつ(生徒数が多い学校は学年別に2週間)実施しています。中学校給食を実際に食べることで、多くの生徒に給食を知ってもらうこと、食べた後のアンケートから改善点を見つけ、利用しやすい環境をつくることを目的としています。対象者のご家庭には学校からお知らせが届きます。この機会にぜひご参加ください!!



栄養士が考えたバランスの良い献立です!



みんなで給食を食べるいいチャンスだね。



今だけの特典!!
給食2食分を無料でプレゼント!

中学校給食の利用登録が必要です。

お問い合わせ 保健給食課 ☎ 042・724・2177

山崎中学校・七国山小学校

小・中・高の連携で子どもたちの成長を見守る！

連携その1 地域の高校生も参加！
「あいさつキャンペーン」

各学期に一回、七国山小学校、山崎中学校、山崎高校の児童・生徒と一緒に各校の正門の前で、登校してくる児童・生徒にあいさつを呼びかけています。

小学生・中学生・高校生と一緒に活動することで、中学生・高校生は手本となるように努力するとともに、小学生は中学生・高校生の姿を見てあこがれを抱きます。

あいさつは人と人をつなぐコミュニケーションの第一歩です。このキャンペーンを通して、子どもたちはあいさつの大切さについて理解します。

小学生は元気がいいな！
小学生から中学生・高校生
が学ぶことも多いかも？



小学生のお手本になれるように頑張ろう！



連携その2 山崎高校の生徒による「出前授業」

毎年、七国山小学校に山崎高校の生徒が出前授業に来てくれています。

児童は、食品ロスの問題を通して、SDGs（持続可能な開発目標）の目標のうち「飢餓」について学習しました。

高校生が調べ、学んだことを、クイズを交えて教えてくれました。また、グループごとに話し合い、考えを深めました。

普段の授業とは違い、年齢の近い高校生から教えてもらうことで、自分たちにとって身近な問題であることを学ぶことができました。



連携その3 人権尊重教育を中心とした「授業交流」

東京都の人権尊重教育推進校として、七国山小学校（平成29・30年度）と山崎中学校（平成30・31年度）が、人権尊重教育を一層充実させるために、道徳の授業の参観等を行い、指導力の向上を図るなど、連携しています。

小学校と中学校が同じ視点で人権尊重教育を進めることで、9年間を通して子どもたちの人権意識を高めることにつながっています。

さらに、子どもたちが互いに認め合う関係を築くことで、思いやりの心の育成にも努めています。

小中での学びに繋がりをもたせることで、よりよい人権尊重教育を目指しています！

9年間の育ち支える、学びつなげる
まちだの小中連携

市立小・中学校では、小中9年間を見通して、小・中学校の教育活動の連続性を確保し、学力の向上に向けた取組や心身の発達段階に応じたきめ細やかな指導を行うため、地区ごとに小中が連携した様々な取組を行っています。



堺中学校・小山ヶ丘小学校・相原小学校

小・中学校の円滑な接続…充実した学校生活のために

連携その1 職場体験

毎年9月に堺中学校の生徒数名が、小山ヶ丘小学校・相原小学校で5日間職場体験をしています。中学生は小テストの採点や、給食の配膳の手伝いなど、小学校の教員のお手伝いをしたり、休み時間に児童たちと遊んだりしています。地域の小学生と交流することにより、地元をより深く理解し、愛着や誇りを持つことができます。また、相原小学校の児童も毎年数名、堺中学校にやって来て、中学校の様子を見学したり、教員の仕事について話を聞いたりしています。自分の将来について考える良い機会となっています。



おしゃべりしてる
児童には「先生のお話
をしっかり聞いてね」
と声をかけるよ！

連携その2 小中連携の教員研修

堺中学校・小山ヶ丘小学校・相原小学校の教員が合同研修会を行い連携を図っています。昨年の8月の研修会では、ICTの活用をテーマに各学校の実践報告や実際に機器を用いた実習を行いました。研修で学んだことを活かして、授業改善に取り組んでいます。

今年度は6月に研修会を行いました。小学校の教員が中学校の授業を見学し、その後、授業や生徒についての情報交換を行いました。生徒への接し方、小学校での生活の様子、学習状況などを聞き、生徒理解や学習面での接続について話し合っています。



小学校から中学校に進み、
みんな少し大人に近づいた
姿が見られました。

連携その3 授業参観と部活動見学

毎年9月頃に小学生が中学校に授業参観と部活動見学に来ています。授業参観をした後、小学生が、自分の見学したい部活を見て回ります。熱心に学習し、部活動に取り組んでいる中学生の姿を間近に見ることで、小学生は中学校生活に対する期待感を高めています。



中学校にはいろいろな部活動があるよ！
どんな部活動に入るか考えてみてね！



白洲正子 町田・武相荘での暮らし

随筆家・白洲正子は、太平洋戦争開戦の翌年（一九四二年）、爆撃が始まった東京の戦禍を逃れるため、夫・次郎とともに南多摩郡鶴川村能ヶ谷（現・町田市能ヶ谷）の農家を購入し、一九四三年に転居しました。二人にとつての初めての持ち家となった茅葺屋根の家は「武相荘」と名付けられ、生涯をここで過ごしました。

執筆のために西国への取材旅行を繰り返した正子にとって、武相荘は疲れを癒してくれる安らぎの場であり、次なる仕事への活力を生み出す場でもありました。

今回は、エッセイやインタビュー記事から、正子の暮らしをひもときます。



戦後間もない頃の武相荘



武相荘の庭でくつろぐ次郎と正子 (1950年代)

戦時中、食料の買い出しにしばしば訪れていた鶴川村。東京からこの地へ転居を決めた理由を娘に尋ねられたとき、正子は次のように答えたといひます。

能ヶ谷という地名に強く惹かれたというのです。幼少の頃より親しみ愛した能という字の入った地名に、自分の運命を感じたそうです。

『随筆家・白洲正子—あざやかなる生の軌跡』展
図録（二〇一〇年 町田市民文学館より）

永田町で生まれ都会的な生活を送っていた正子でしたが、四季の移ろいが感じられる自然豊かな鶴川村での田舎暮らしをとてにも気に入っていました。

都会の生活が嫌で、家と一緒呼吸しながら四季の移り変わりを自分の肌で感じる、そういう暮らしが良かった。これは都会と違って、朝、窓を開けた途端に木犀や木蓮の匂いが漂ってきて、「ああ、秋だなとか、「春だな」とか感じるよ」が、きんんです。

『白洲正子「ほんもの」の生活』
（二〇〇一年 新潮社より）



白洲 正子
(しらす・まさこ)
1910—1998

随筆家。東京生まれ。鶴川に転居した1943年に初めての著書『お能』を刊行。青山二郎や小林秀雄との交流を通して骨董の世界に没入するとともに文章指南を受ける。1964年『能面』で第15回読売文学賞を、1972年『かくれ里』により第24回読売文学賞を受賞。独自の感性と視点によって、日本古来の美の世界を捉えなおし、数多くの作品を残した。

正子は日々の暮らしに花を絶やしませんでした。花を活けていると不思議に元気が湧いてくると言い、活け方には彼女ならではの流儀がありました。

私の生け花は、だれかに習ったわけじゃなくて、実は器が先生なの。器がこういうふうに分けて下さいって語りかけてくる。人間に自分に合った家が必要のように、花にも落着く場所が必要。

花はいつも儂いものだから、その可憐な花をしっかりとした器が受けとめる。そこに静と動の調和した世界が生まれるの。極端にいえば器あつての花なのよ。

『白洲正子「ほんもの」の生活』
（二〇〇一年 新潮社より）



原稿の執筆はもちろん手書きで、ペンの先の太い万年筆を使い、螺鈿が施された筆箱を愛用していました。しかし、もともとは墨書が好きで端溪の硯や李朝の水滴など、お気に入りの文房具を見て、使って、楽しんでいました。

硯などはさわって気がいいだけでなく、墨をすっている間のたのしさはまた格別だ。すって行くほどに硯と墨がぴったり調和して、陶然とした心地になる。せつちやう、がさつな私も、その間だけは人生の豊かさを味わうような気がしないでもない。ふだん愛用している李朝の水滴は、実際の用より、原稿を書きあぐねた時、いじっていると心が安まる。鎮静剤なんか飲むより、私にとってはこの方がよほど利きめがあるらしい。

「李朝の水滴」『白洲正子全集』第十四巻 二〇〇二年 新潮社より

「美の目利き」「美の求道者」と呼ばれ多くの骨董を収集した正子。彼女にとつて骨董は、美術品として「愛する」ものではなく、日々の生活で「使う」ものでした。

はじめの頃は私も、きれいな唐の人形や、宋の赤絵などに心をひかれましたが、ただ鑑賞するだけではだんだん満足ゆかなくなつて、じかに唇にふれる盃とか茶碗、日常使える徳利や皿のたぐいが好きになり、そんな物ばかり集めてしまいました。眼に映る形のほかに、触感も加わって、そのたのしみは増すばかりです。

「暮らしの中の美」『白洲正子全集』第二巻 二〇〇一年 新潮社より



緑釉木の葉文皿
北大路魯山人作
(武相荘蔵)



緑釉土瓶と色絵有平縞湯呑
北大路魯山人作
(武相荘蔵)

写真提供：旧白洲邸武相荘

今回の展覧会では、正子のライフスタイルに注目し、彼女の審美眼に適った品々を、暮らし・おしゃれ・たしなみ・ライフワークといったテーマに分けてご紹介します。また、夫・次郎の足跡を振り返るとともに正子からみた次郎の素顔にも迫ります。文化は「一人一人のその日その日の生活の中にある」と述べ、好きなことを貫き、楽しい時間を探し求めた正子の暮らしぶりを、ぜひご覧ください。

「白洲正子のライフスタイル—暮らしの遊び」展

展覧会会期 2019年10月19日(土)～12月22日(日)

観覧料 一般400円
大学生・65歳以上200円
高校生以下無料

休館日 月曜日、第2木曜日

観覧時間 10:00～17:00

町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 町田市原町田4-16-17

TEL: 042-739-3420 / FAX: 042-739-3421

リサイクル適性 (A) この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この広報紙は、109,700部作成し、1部あたりの単価は4円です。(職員人件費を含みます。)